

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373101015		
法人名	社旗ア福祉法人 洋香会		
事業所名	にしき園グループホーム さくら棟		
所在地	熊本県球磨郡錦町大字西70番地		
自己評価作成日	令和4年10月7日	評価結果市町村受理日	令和4年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

菜園や畑を含む広大な敷地を有し、近隣には果樹園や牛舎等の自然環境に恵まれた中での共同生活の場である。利用者様は朝食後の園庭の散歩を一日のスタートとして、途中草花を眺められたり、時には実った野菜を収穫されたり、楽しみを持ちながら過ごされている。季節毎の行事や誕生会、地域の神社参り、畑での野菜や果物作り等それぞれに出来ることを続けながら生活されている。本来は小学生や保育園児との交流会、認知症カフェ、ボランティアの受け入れ、介護相談員訪問等更に地域との関わりをより多く持つところだが、現在は感染症予防の為に制限せざるを得ない状況であり、一日も早い終息を願うばかりである。共用型デイサービス利用者様との馴染み関係も大切にしながら皆様の笑顔ある日々の支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して16年という経年の中で入居者の入れ替りという過度期にあり、原点に立ち戻り研修を充実させ、感染対策として統一したケアに取り組むホームでは、地域の中での生活や住民との交流が難しい状況に、ホーム内行事で四季を楽しみ、広い敷地等ホーム資源の活用は日常生活の幅を広げている。コロナ禍にこれまで以上の家族への情報発信(メッセージカードの送付やブログ等)が安心感として生かされ、ワイアレスマイクの導入等家族の訪問を手助けしている。開設当初からの職員等入れ替りも少なく、管理者を中心として意思疎通のよい関係が出来上がり、各種委員会活動や不適切ケアのアンケート調査等を通じたケア向上等志向を高めて臨んでいる。入居者同士労いあい、和やかな生活を垣間見るホームであり、虹色サロンの再開が近隣住民との接点としてこれまで築き上げてきた地域生活の継続に反映できることと大いに期待したい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく複数個所に理念「自然を愛し、地域を愛し、人を愛す」を掲示し、全職員で常に共有し、日頃の業務に活かすことを意識している。	理念である「自然を愛し、地域を愛し、人を愛す」を掲示による意識付けとする他、理念の捉え方を具体的にできるよう職員と相談している。今回の評価も全員が自己評価に取り組んでいる。また、職員個々が目標を持って業務に邁進するとともに、原点に戻り研修を充実させている。コロナ禍に、地域との交流は難しい現状に管理者が外に向かって活動している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本来は運営推進会議、近隣の保育園や小学校との交流会、虹色カフェ、地域住民への認知症講座の実施、合同避難訓練、季節の神社参り等を行っているが、コロナ禍において近年はほぼ実施出来ず、今後状況次第で如何に地域との繋がりを持つかが目下の課題である。	例年であれば、地域の中で充実した生活であったものの、コロナ禍により交流出来る状況にはない。しかし、近隣住民からの野菜や果物の提供の他、高校からの花の苗が届く等これまで通りの関係が保たれている。	コロナ感染症に目処が立てば、これまで行われていた地域住民との交流や虹色カフェの再開に向けた話し合い等進めていただくことが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館や近隣の小学校での認知症サポーター養成講座の開催、認知症声掛け見守り訓練の実施、認知症についての外部研修の機会の提供等に協力している。虹いろカフェも感染症拡大状況次第で再開を目指したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様代表、家族様代表、区長、民生委員、地域住民、消防団長、町役場保険政策課長、地域包括支援センター職員の方々出席の下、原則奇数月に開催し、日頃の利用者様の状況、施設運営について意見をいただきながら、情報共有や検討の場としている。目下コロナ禍にて主に書類配布での持ち回り協議とせざるをえず、大変遺憾である。	今年度は感染症拡大により書面審議として、意見用紙同封の上、報告書(二ヶ月間の状況や活動、入居者の状況等)を配布し、後日に意見を聞き取りする体制としている。充実したメンバー構成で有り、コロナ感染症の状況により対面での開催を検討いただきたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での情報共有や検討、その他利用者様の各種申請手続き、厚労省からの通達関連の周知等連携を取っている。認知症啓蒙活動として、地域の認知症サポーター活動(声掛け見守り訓練、講座)や会議出席等において協力し随時行き来している。	行政から厚労省からの通達等が頻繁に寄せられ、コロナ感染対策での行政の協力や、負担軽減での申請や介護保険認定更新などに出かけながら情報を発信している。管理者は認知症サポーター養成講師として関わるなど相互協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関先に身体拘束をしない宣誓文を掲示し全職員で意識付けを行い、身体拘束委員会を中心にテーマを決めた取り組み等を行っている。夜間帯以外は施錠は一切行わないことを全職員で周知徹底している。	身体拘束は行い無いことを前提に、玄関や各ユニットに宣言文を掲示し、全員が意識を持ってケアに当たっている。身体拘束廃止委員会でのアンケート調査や不適切なケアとして入浴介助や排泄、食事のエプロン使用等事例をもとに話し合っている。また、友だち感覚で接する・子ども扱いする・呼び捨て・ノックのない入室等を行わないこと等グレーゾーンを明確に示している。センサーも使用せず、転倒のリスクの高い入居者には衝撃吸収マットを使用するとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人としても高齢者虐待防止についての研修の場を定期的に設けながら、全職員への意識付けを行い倫理について深く理解し、利用者様の安全安心な生活に繋がるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の対象者で利用中の方がおられ、手続きの際は家族様と連携して支援している。今後、全職員で更に理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時には、利用者様や家族様に契約書を基に施設の概要や方針、支援について時間をかけて丁寧に説明し、質問やご意見について回答しながらご理解を得られるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には、日々の生活の中で、家族様には来設時や電話連絡時等の他いつでもご要望や意見を伺い、玄関先には「心のこえ」を設置して、勉強会や委員会、運営推進会議で報告しその後の支援に活かせるよう取り組んでいる。	職員は入居者には日々の生活の中で聴き取りし、家族には利用料金持参時や訪問時等要望や意見を聴き取りしている。玄関に“心の声”を設置し、何でも言ってもらう事でサービスの向上に繋がりたいとしているが、利用や苦情の申し立ても無く、事ある毎に情報を発信するとともに行事等ブログを活用している。管理者は、入居者の尊重と家族との信頼関係は特に重要であるとし、窓越し面会やハンディインターフォン等の使用等工夫し、第三者委員やホームの苦情相談窓口の存在も明確にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕のミーティング、毎月の勉強会や各種委員会、人事考課時の面談等で職員の要望や意見を聞きながら、随時検討している。	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、朝・夕の申し送りや、各委員会(感染対策・リスク・サービス向上・身体拘束適正等)や、毎月の勉強会の中でケア検討や各委員会での検討・内容を精査している。管理者は職員の意見を反映したいとして多くの機会を作り、職員の表情や様子も見ながら声かけするとともに、職員同士も助け合い、目標を持ちながらケアに邁進している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期毎の人事考課において、職員の自己評価を基に面談し、目標の達成度や助言、指導を含めて法人としても公平な評価の場を設けている。賞与への反映、昇給制度を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修への参加、社会福祉主事、介護福祉士、介護支援専門員、防火管理者等の資格取得を奨励し、職員のそれぞれのスキルアップの場を確保出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会ブロック会において、定期的にテーマに沿った研修や勉強会を開催し参加することによって、サービスの質の向上に取り組んでいる。コロナ禍で中止せざるをえないことが多かった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時に、出来るだけ本人様に直接これまでの生活歴や好まれること、要望等を伺い、思いを引出しながらケアプランに反映させて、安心安全な生活に繋がるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族様の困りごと、要望、意向をしっかりと把握し、施設説明を明確に行い、安心して利用されるよう、又信頼して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の現在の状況をしっかりと把握し、課題の抽出、ニーズ、必要な支援のあり方において、多職種連携して対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはして頂き、家事や菜園活動等共同で取り組み、役割や生き甲斐を持ちながら馴染み関係の構築を図り、共同生活を営まれるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではあるが、状況次第でガラス越し面会を実施し、電話での会話、メッセージカードや広報誌、ホームページのブログでの発信で、利用者様の日常を把握して頂き家族様との情報共有や関係性の持続に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本来は、家族様や地域の方々との面会、近隣小学生、保育園児との交流会、季節の神社参り、自宅や親戚宅へのふるさと訪問、冠婚葬祭時の外出、家族のお見舞い等を行っているが、現在はコロナ禍にて実施出来ない状況である。今後状況次第で再度取り組んでいく。	これまで出来ていた場所への外出支援等コロナ禍に有る状況では難しいが、四季折々の行事や季節毎の野菜作り、編み物等入居者の生活歴の継続として生かされている。 (例:長靴履きでの農作業・芋掘り、着物での踊り等)コロナの状況に応じた面会方法による家族の面会支援、お盆(迎え団子、送り団子)や、春にはぼた餅、秋にはおはぎ、観月会など慣習を継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者様間の馴染み関係の構築に努め、ソ ファー席や食事席等に配慮し、お互いにお 世話したりされたりの心遣いの場面も見ら れ、協力し合い仲良く生活されるよう努めて いる。感染症予防の為、お互いの距離には 配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、入院先や施設入所先へ必 要な情報提供を行い、家族様の相談等に協 力する姿勢で対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人様の要望や意向を声掛けや会話の際 に出来るだけ引き出せるよう、担当介護士 を配し細かい把握に努め、日々の生活に反 映させるよう取り組んでいる。	職員は入居者と密にコミュニケーションを図 り、思いを引き出している。意思表示の難し い入居者には表情や行動を見ながら検討し、 不快な思いにさせず、出来ることは少しで もやってもらう事として家族にも相談してい る。特に、担当職員は入居者の心の声に寄り 添うケアに努め、入居者が喜ばれるような声 掛けや笑顔が出る様な話しかけに努めてい る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居時に本人様や家族様より生活歴を出来 るだけ詳しく聞き取り、前サービス利用であ れば、担当者からの情報を参考にしながら、 日々の支援に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	本人様に寄り添い、傾聴や声掛けを行いな がら、状態観察して好まれること、そうでな いこと、出来るこの範囲や1日のペース、リ ズム等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティング、勉強会でのケア検討、サービス担当者会議、受診時の主治医との情報共有等において、本人様の現状を把握し、本人様や家族様の要望、意向を聞き取りながら計画書に反映させている。	入居者及び家族の意向等を踏まえ、入居当所は暫定プランとして入居者の様子を見ながら原案を立て、家族の同意を得て正式なプランとしている。日々の申し送りや3ヶ月毎のケア検討会議等により、家族の意向を踏まえた課題分析や、職員の意見等を検討している。退院後には一部修正する等現状に即したプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録に本人様の日々の会話も含めて記録し、モニタリングしながら職員間で共有しミーティングやケア検討会での計画書の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化、本人様や家族様の要望や意向に沿って、専門医の受診や緊急時の外出や外泊等の相談に応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民、包括支援センター、民生委員、介護相談員、ボランティア、警察、消防、病院、理美容院等々、様々な資源との繋がりを持ち、日々の安全安心な暮らしを支援している。コロナ禍で制限ある中、今後状況次第で少しでも実施できるよう努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ入居前からの馴染みの掛かりつけ医にて継続的な医療が受けられるよう、状況次第では利用者様、家族様が希望される医療機関への移行を含めて情報共有等連携し支援している。	本人・家族の意向に沿った医療を支援するとし、かかりつけ医を継続して支援しているが、遠方のかかりつけ医については家族と相談し変更することもある。各々のかかりつけ医への定期受診や状態変化にはその都度受診を支援し、家族に連絡し状況を共有している。職員は日々の健康チェックや食の進み具合、動作等から異常を早期に見極め、適切な医療を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2名を配置し利用者様の健康管理を行い、介護職員への申し送りを徹底し、掛かりつけ医や専門医の看護師、同法人の他部署の看護師と連携し、各予防接種等を含めて協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には直ちに情報提供を行い、その後の経過を病院や家族様と定期的に情報共有し、退院時は入院中から現在までの状態を十分に把握し、再び施設での生活のリズムに馴染まれるよう、リハビリ等を実施し、多職種連携して家族様に報告しながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、契約時に重度化した場合の指針や医療機関、協力施設との連携について説明を行い利用者様や家族様の要望、意見を伺い支援している。必要となった場合の生活の場として、特養入所を含めた申し込み等の助言を行っている。	入居時に重度化した場合の指針を基に方針を説明し、入所基準に沿い特養施設への申し込みに応じている。入居者の状態を見ながら医療行為の継続性等ホームでの生活に無理があると判断した場合には家族と話し合い、医療機関や協力施設について再度説明する等入居者の移行先等方向性を示すとともに最良の方法を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、法人やグループホーム連絡会での救急救命研修や勉強会で実践力を身につけている。緊急連絡網に従って素早く職員間の連携が取れるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携して定期的に消防避難訓練、災害避難訓練を実施している。コロナ禍にて立ち合い訓練や地域との合同訓練が未実施の為、今後感染症拡大状況次第で取り組まねばならない。食品物品の備蓄や発電機を整備している。	火災や自然災害を想定して訓練を年4回実施しており、自然災害の訓練には2年前の大水害の教訓が生かされスムーズな避難誘導が出来ている。有事の備え、訓練を繰り返すことが大事であるとしている。台風時の停電も体験し、地域への還元として臨時避難場所として提供している。更に行政と協議し発電機を整備している。	地域の避難場所として開放することとしており、AEDを設置することも発信されることが期待される。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々利用者様を尊敬し、言葉使いや接し方の工夫や配慮に努めている。特に入浴、更衣、排泄時等は、声掛けと共にドアやカーテンの開閉に留意し安心して任せて頂けるよう支援している。	職員は、常に自分の家族であったらどうかと行くことを考えてケアに当たり、言葉使いや接し方など相手を思いやり、親しい仲にも節度を持って対応するよう心掛けている。また、方言も入居者に通じる言葉や慣れ親しんだものとして尊重するようにしている。法人の全体研修では職員手帳の読み合わせを通じて接遇やプライバシーについて共有し、呼称は苗字にさん付けを基本としたり、入浴や排泄時の対応に配慮している。法人としてのプライバシーポリシーや個人情報マニュアルを策定し、家族とはホームページでの写真や動画の掲載等同意を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、利用者様と出来るだけお話してそれぞれの好みや要望を聞き取り、食べたいものや出かけたい所、その日の服装や衣類について話題を提供しながら、お一人ずつの声を引き出せるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理をせず、急がせず、その方のペースに合わせて、その時の状況を見ながらコミュニケーションを取り本人様の気持ちに寄り添った支援に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれに個人のブラシで整髪され、定期的に美容師にて散髪を実施し、中には希望に応じて髪染めの支援を行っている。化粧をして1日のスタートをきられる方もおられる。時折家族様が化粧品の補充をされている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には庭先や裏の畑で皆様が一緒に収穫された野菜を料理に活かしている。下ごしらえや食事の盛り付け、下膳や洗い物等を手伝われることもある。	ユニット毎に異なるメニューは法人の献立をヒントに入居者の好みを把握して作成している。畑には季節を通じて様々な野菜や果物が実り、育ち具合を楽しみ、収穫した野菜は食卓に上る等一連の作業を入居者と共に実践し、食事中的会話へと広げている。普通食で提供しており、素材の色や形を残しながら調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士が作成している献立表を参考にしながら、出来るだけ旬のものや季節感あるメニューの提供に努めている。お一人ずつの栄養状態を把握し、健康状態や体調に応じてバランス良く形態に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、又は必要時に義歯洗浄、歯磨き、うがいをして頂き、口腔内の清潔保持に努めている。義歯ブラシ、舌ブラシを使用し、義歯洗浄剤で消毒している。必要時は歯科受診し、助言等をいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人ずつそれぞれの排泄のパターンを把握し、出来るだけトイレでの自立を促し、状況次第で必要時は夜間のポータブルトイレの使用、パッドやポイズのサイズを使い分けて不快感や不安感を減らし、清潔で快適に過ごされるよう支援している。	個々のパターンを把握し、声かけや誘導により日中はトイレでの排泄を基本として支援している。排泄用品の選択や組み合わせには特に注意し、布パンツからリハビリパンツに変更する場合には入居者の声に耳を傾けている。夜間の頻尿や退院後の排泄用品の選択、熟睡時の対応等検討事項を共有し、支援に当たっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分補給を促し、食生活においては出来るだけ野菜、ヨーグルト、きな粉牛乳、食物繊維や発酵食品等を取り入れて工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調を把握し、本人様の気持ちに寄り添いながら声掛けし、安全を確保してゆっくりと入られるよう支援している。洗身や拭き取り、更衣等出来ることをして頂き、季節によって菖蒲湯やゆず湯を楽しんで頂いている。	午前中に入浴を支援し、残存能力を生かすべく出来ることは自分でしてもらい、湯船に使ってもらうこととしている。子どもの日の菖蒲や冬至には袖を準備し、歌や昔話等職員との1対1の時間を楽しまれるよう工夫している。入浴拒否時には家族の承諾を得てシャワー浴としたり、足浴や清拭による清潔保持に努めている。	入浴回数を3回にすることが理想であるとしており、個別の希望に応じ、検討の余地もあると思われる。今後の話し合いに期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝衣に着替えて頂き、ゆっくり休まれるよう、又時には足浴を実施し安眠や良眠に繋がるよう努めている。寝具の天日干し、居室の環境整備、空調管理を行い、快適に休まれるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理の下、薬情ファイルを作成し、全職員で利用者毎の服薬内容を把握、共有している。服薬の際は、日付や名前を声に出して都度確認し、最後まで目視確認することを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様お一人ずつの好まれることを把握し、歌、踊り、塗り絵、貼り絵、裁縫、編み物、菜園活動、家事等楽しみや活気のある生活を支援している。おしぼりたたみや花の水替え、掃き掃除等役割を持ってされている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅へのへのふるさと訪問、お墓参り、馴染みの美容院への外出、冠婚葬祭時の出席、外泊、季節の花見や神社参拝等本人様と地域の繋がりを出来るだけ絶やさないう支援しているが、コロナ禍にて、なかなか出来ない現状である。状況次第で今後少しでも実施していくことを目指す。	コロナ感染症によりこれまで出来ていた外出は難しい状況にあるが、ホーム周辺の散歩や車窓からの紅葉などの見学に出かけている。伝統行事である“しゃんなめじょ”や“花まつり”を室内で祝い、地域住民や高校生からの野菜や果物、花の苗の差し入れを日々の生活に活用し、敷地内の散歩や畑の作物に触れることも日課としている。	コロナ感染対策としてホームでの活動が中心であるが、外出を制限する中でも活気ある暮らしが営まれている。入居者の出かけたいたいとの思いを引き出し、密にならない場所等をリサーチし、出かけられる状況になった時に備えていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については事務所で管理しているが、パンの移動販売や地域の祭り等での買い物、神社参りの際の賽銭等状況に応じて、それぞれに所持や支払いをして頂くこともある。但し、コロナ禍にてなかなか実施出来ず今後状況次第で検討する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様に誕生日やその他贈り物が届いた時、他にも希望があればいつでも電話や手紙のやり取りをされている。暑中見舞いや年賀状等も書かれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先やホールに、時には居室に季節の花を飾り、壁面には日々の皆様の活動の写真を貼り、時には音楽を流して、雰囲気作りに努めている。排泄や入浴の場所等分かりやすく掲示し動線を確認して安心安全に、定期的な換気と温度、湿度を確認しながら空調管理を行い、過ごしやすい環境作りに努めている。	ユニット毎に造りの違いはあるが、共有空間には草花を生け、壁面の装飾を入居者と一緒に工夫しながら季節感のある場としている。テーブルや椅子の配置等対面にならないように工夫し、時には入居者が一人で寛げるよう屋内外に椅子やベンチの空間を設けている。裏庭に両ユニットをつなぐ渡り廊下を新設し、行き来を容易にしたり、布団干しの場として活用している。小鳥のさえずりや風音等心地良い環境と、感染対策を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けや二、三人掛けのソファやカウンター席も活用し、事務所裏の談話室、園庭のベンチや休憩所、ベランダ等でゆっくり過ごして頂き、時には居室で一人の時間も過ごされる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様のこれまでの生活で使い慣れた馴染みのある物を持参して頂き、落ち着いた雰囲気の中で安心して過ごされるよう支援している。写真等を飾り思い出を大切に頂くよう配慮している。	新たに入居する家族には動画で居室の様子を確認してもらい、必要な品や物品の大きさを検討してもらっている。これまで使いなれたタンス、写真、手紙等が持ち込まれ、位牌に仏飯を備えている方等我が家の沿線として捉えた居室もある。職員は安全性を考慮したベッド配置を検討し、家具が踏み台になることも踏まえ委員会で話し合いが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に名前を表示し、ホールや壁面に時計やカレンダーを利用者様に分かりやすいよう配置している。暦の日めくりは利用者がされる。居室のタンスには衣類の区別が出来るよう引き出しに表示し、トイレには目印をつけている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373101015		
法人名	社旗ア福祉法人 洋香会		
事業所名	にしき園グループホーム うめ棟		
所在地	熊本県球磨郡錦町大字西70番地		
自己評価作成日	令和4年10月7日	評価結果市町村受理日	令和4年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

菜園や畑を含む広大な敷地を有し、近隣には果樹園や牛舎等の自然環境に恵まれた中での共同生活の場である。利用者様は朝食後の園庭の散歩を一日のスタートとして、途中草花を眺められたり、時には実った野菜を収穫されたり、楽しみを持ちながら過ごされている。季節毎の行事や誕生会、地域の神社参り、畑での野菜や果物作り等それぞれに出来ることを続けながら生活されている。本来は小学生や保育園児との交流会、認知症カフェ、ボランティアの受け入れ、介護相談員訪問等更に地域との関わりをより多く持つところだが、現在は感染症予防の為に制限せざるを得ない状況であり、一日も早い終息を願うばかりである。共用型デイサービス利用者様との馴染み関係も大切にしながら皆様の笑顔ある日々の支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく複数個所に理念「自然を愛し、地域を愛し、人を愛す」を掲示し、全職員で常に共有し、日頃の業務に活かすことを意識している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本来は運営推進会議、近隣の保育園や小学校との交流会、虹色カフェ、地域住民への認知症講座の実施、合同避難訓練、季節の神社参り等を行っているが、コロナ禍において近年はほぼ実施出来ず、今後状況次第で如何に地域との繋がりを持つかが目下の課題である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館や近隣の小学校での認知症サポーター養成講座の開催、認知症声掛け見守り訓練の実施、認知症についての外部研修の機会の提供等に協力している。虹いろカフェも感染症拡大状況次第で再開を目指したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様代表、家族様代表、区長、民生委員、地域住民、消防団長、町役場保険政策課長、地域包括支援センター職員の方々出席の下、原則奇数月に開催し、日頃の利用者様の状況、施設運営について意見をいただきながら、情報共有や検討の場としている。目下コロナ禍にて主に書類配布での持ち回り協議とせざるをえず、大変遺憾である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での情報共有や検討、その他利用者様の各種申請手続き、厚労省からの通達関連の周知等連携を取っている。認知症啓蒙活動として、地域の認知症サポーター活動(声掛け見守り訓練、講座)や会議出席等において協力し随時行き来している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関先に身体拘束をしない宣誓文を掲示し全職員で意識付けを行い、身体拘束委員会を中心にテーマを決めた取り組み等を行っている。夜間帯以外は施錠は一切行わないことを全職員で周知徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人としても高齢者虐待防止についての研修の場を定期的に設けながら、全職員への意識付けを行い倫理について深く理解し、利用者様の安全安心な生活に繋がるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の対象者で利用中の方がおられ、手続きの際は家族様と連携して支援している。今後、全職員で更に理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時には、利用者様や家族様に契約書を基に施設の概要や方針、支援について時間をかけて丁寧に説明し、質問やご意見について回答しながらご理解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には、日々の生活の中で、家族様には来設時や電話連絡時等の他いつでもご要望や意見を伺い、玄関先には「心のこえ」を設置して、勉強会や委員会、運営推進会議で報告しその後の支援に活かせるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕のミーティング、毎月の勉強会や各種委員会、人事考課時の面談等で職員の要望や意見を聞きながら、随時検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期毎の人事考課において、職員の自己評価を基に面談し、目標の達成度や助言、指導を含めて法人としても公平な評価の場を設けている。賞与への反映、昇給制度を整備している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修への参加、社会福祉主事、介護福祉士、介護支援専門員、防火管理者等の資格取得を奨励し、職員のそれぞれのスキルアップの場を確保出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会ブロック会において、定期的にテーマに沿った研修や勉強会を開催し参加することによって、サービスの質の向上に取り組んでいる。コロナ禍で中止せざるをえないことが多かった。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時に、出来るだけ本人様に直接これまでの生活歴や好まれること、要望等を伺い、思いを引出しながらケアプランに反映させて、安心安全な生活に繋がるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族様の困りごと、要望、意向をしっかりと把握し、施設説明を明確に行い、安心して利用されるよう、又信頼して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の現在の状況をしっかりと把握し、課題の抽出、ニーズ、必要な支援のあり方において、多職種連携して対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはして頂き、家事や菜園活動等共同で取り組み、役割や生き甲斐を持ちながら馴染み関係の構築を図り、共同生活を営まれるよう支援している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではあるが、状況次第でガラス越し面会を実施し、電話での会話、メッセージカードや広報誌、ホームページのブログでの発信で、利用者様の日常を把握して頂き家族様との情報共有や関係性の持続に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本来は、家族様や地域の方々との面会、近隣小学生、保育園児との交流会、季節の神社参り、自宅や親戚宅へのふるさと訪問、冠婚葬祭時の外出、家族のお見舞い等を行っているが、現在はコロナ禍にて実施出来ない状況である。今後状況次第で再度取り組んでいく。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間の馴染み関係の構築に努め、ソファー席や食事席等に配慮し、お互いにお世話したりされたりの心遣いの場面も見られ、協力し合い仲良く生活されるよう努めている。感染症予防の為、お互いの距離には配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、入院先や施設入所先へ必要な情報提供を行い、家族様の相談等に協力する姿勢で対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の要望や意向を声掛けや会話の際に出来るだけ引き出せるよう、担当介護士を配し細かい把握に努め、日々の生活に反映させるよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人様や家族様より生活歴を出来るだけ詳しく聞き取り、前サービス利用であれば、担当者からの情報を参考にしながら、日々の支援に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様に寄り添い、傾聴や声掛けを行いながら、状態観察して好まれること、そうでないこと、出来るこの範囲や1日のペース、リズム等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティング、勉強会でのケア検討、サービス担当者会議、受診時の主治医との情報共有等において、本人様の現状を把握し、本人様や家族様の要望、意向を聞き取りながら計画書に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録に本人様の日々の会話も含めて記録し、モニタリングしながら職員間で共有しミーティングやケア検討会での計画書の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化、本人様や家族様の要望や意向に沿って、専門医の受診や緊急時の外出や外泊等の相談に応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民、包括支援センター、民生委員、介護相談員、ボランティア、警察、消防、病院、理美容院等々、様々な資源との繋がりを持ち、日々の安全安心な暮らしを支援している。コロナ禍で制限ある中、今後状況次第で少しでも実施できるよう努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ入居前からの馴染みのかかりつけ医にて継続的な医療が受けられるよう、状況次第では利用者様、家族様が希望される医療機関への移行を含めて情報共有等連携し支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2名を配置し利用者様の健康管理を行い、介護職員への申し送りを徹底し、かかりつけ医や専門医の看護師、同法人の他部署の看護師と連携し、各予防接種等を含めて協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には直ちに情報提供を行い、その後の経過を病院や家族様と定期的に情報共有し、退院時は入院中から現在までの状態を十分に把握し、再び施設での生活のリズムに馴染まれるよう、リハビリ等を実施し、多職種連携して家族様に報告しながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、契約時に重度化した場合の指針や医療機関、協力施設との連携について説明を行い利用者様や家族様の要望、意見を伺い支援している。必要となった場合の生活の場として、特養入所を含めた申し込み等の助言を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、法人やグループホーム連絡会での救急救命研修や勉強会で実践力を身につけている。緊急連絡網に従って素早く職員間の連携が取れるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携して定期的に消防避難訓練、災害避難訓練を実施している。コロナ禍にて立ち合い訓練や地域との合同訓練が未実施の為、今後感染症拡大状況次第で取り組まねばならない。食品物品の備蓄や発電機を整備している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々利用者様を尊敬し、言葉使いや接し方の工夫や配慮に努めている。特に入浴、更衣、排泄時等は、声掛けと共にドアやカーテンの開閉に留意し安心して任せて頂けるよう支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、利用者様と出来るだけお話してそれぞれの好みや要望を聞き取り、食べたいものや出かけた所、その日の服装や衣類について話題を提供しながら、お一人ずつの声を引き出せるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理をせず、急がせず、その方のペースに合わせて、その時の状況を見ながらコミュニケーションを取り本人様の気持ちに寄り添った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれに個人のブラシで整髪され、定期的に美容師にて散髪を実施し、中には希望に応じて髪染めの支援を行っている。化粧をして1日のスタートをされる方もおられる。時折家族様が化粧品の補充をされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には庭先や裏の畑で皆様と一緒に収穫された野菜を料理に活かしている。下ごしらえや食事の盛り付け、下膳や洗い物等を手伝われることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士が作成している献立表を参考にしながら、出来るだけ旬のものや季節感あるメニューの提供に努めている。お一人ずつの栄養状態を把握し、健康状態や体調に応じてバランス良く形態に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、又は必要時に義歯洗浄、歯磨き、うがいをして頂き、口腔内の清潔保持に努めている。義歯ブラシ、舌ブラシを使用し、義歯洗浄剤で消毒している。必要時は歯科受診し、助言等をいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人ずつそれぞれの排泄のパターンを把握し、出来るだけトイレでの自立を促し、状況次第で必要時は夜間のポータブルトイレの使用、パッドやポイズのサイズを使い分けて不快感や不安感を減らし、清潔で快適に過ごされるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分補給を促し、食生活においては出来るだけ野菜、ヨーグルト、きな粉牛乳、食物繊維や発酵食品等を取り入れて工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調を把握し、本人様の気持ちに寄り添いながら声掛けし、安全を確保してゆっくりと入られるよう支援している。洗身や拭き取り、更衣等出来ることをして頂き、季節によって菖蒲湯やゆず湯を楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝衣に着替えて頂き、ゆっくり休まれるよう、又時には足浴を実施し安眠や良眠に繋がるよう努めている。寝具の天日干し、居室の環境整備、空調管理を行い、快適に休まれるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理の下、薬情ファイルを作成し、全職員で利用者毎の服薬内容を把握、共有している。服薬の際は、日付や名前を声に出して都度確認し、最後まで目視確認することを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様お一人ずつの好まれることを把握し、歌、踊り、塗り絵、貼り絵、裁縫、編み物、菜園活動、家事等楽しみや活気のある生活を支援している。おしぼりたたみや花の水替え、掃き掃除等役割を持ってされている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅へのへのふるさと訪問、お墓参り、馴染みの美容院への外出、冠婚葬祭時の出席、外泊、季節の花見や神社参拝等本人様と地域の繋がりを出来るだけ絶やさないう支援しているが、コロナ禍にて、なかなか出来ない現状である。状況次第で今後少しでも実施していくことを目指す。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については事務所で管理しているが、パンの移動販売や地域の祭り等での買い物、神社参りの際の賽銭等状況に応じて、それぞれに所持や支払いをして頂くこともある。但し、コロナ禍にてなかなか実施出来ず今後状況次第で検討する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様に誕生日やその他贈り物が届いた時、他にも希望があればいつでも電話や手紙のやり取りをされている。暑中見舞いや年賀状等も書かれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先やホールに、時には居室に季節の花を飾り、壁面には日々の皆様の活動の写真を貼り、時には音楽を流して、雰囲気作りに努めている。排泄や入浴の場所等分かりやすく掲示し動線を確認して安心安全に、定期的な換気と温度、湿度を確認しながら空調管理を行い、過ごしやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けや二、三人掛けのソファやカウンター席も活用し、事務所裏の談話室、園庭のベンチや休憩所、ベランダ等でゆっくり過ごして頂き、時には居室で一人の時間も過ごされる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様のこれまでの生活で使い慣れた馴染みのある物を持参して頂き、落ち着いた雰囲気の中で安心して過ごされるよう支援している。写真等を飾り思い出を大切にしてくれるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に名前を表示し、ホールや壁面に時計やカレンダーを利用者様に分かりやすいよう配置している。暦の日めくりは利用者様がされる。居室のタンスには衣類の区別が出来るよう引き出しに表示し、トイレには目印をつけている。		